

令和6年度 第3回学校運営協議会 議事録

1 日時 令和7年2月17日(月) 15:30~16:30

2 場所 川俣高等学校 学習室C

3 出席者

学校運営協議会委員7名

本校職員 11名

4 内容

(1) 開会のことば(進行)

(2) 会長あいさつ

(3) 校長あいさつ

(4) 協議

○「学びの成果」発表(総合的な探究の時間)及び成果と課題

①人物図鑑

・生徒の発表(1年)

・担当者より

インタビューも資料の作成も、何もかもが初めての体験で生徒はかなり手間取っていたようである。今回の経験を次年度以降の発表の機会に活かしてほしい。

②動画班「ニュー新川」

・生徒の発表(3年)

・担当者より

週に1時間だけだが、毎時間の内容が濃い。動画作成は、アポ取り・取材・編集方法等、全て生徒自身が考えて実施した。動画作成の技術や知識を身に着けるだけでなく、地域の人との関りをとおして、生徒が成長していることを実感している。生徒の主体性や計画性を引き出していくことが今後の課題である。

③農業班「ニンジン」

・生徒の発表(3年)

・担当者より

収穫祭で食べる料理に使う食材を栽培した。昨年度はピザを作り、今年度はカレーに決定。ジャガイモ、玉ねぎ、なす、パプリカ、コーン等の作物を栽培した。夏休み中は、当番を決めて登校し、毎日水やりを欠かさず行った。ご指導いただいている地域の方々とのコミュニケーションも深まり、生徒自身が率先して動く姿が昨年よりも多く見られた。来年度も3年生は同じ内容で実施する予定。

○学校の魅力化向上の取り組みについて

①総合的な探究の時間について

・現在、総探の学習内容について枠組みを再構築しているところである。生徒が「やってみたい」と思う気持ちを大切にしつつ、総探の本質に近づけるような学習内容を目指している。具体的には、1年次は川俣町について知るがテーマ。フィールドワークで川俣町に出向き、川俣町について理解を深める。2年

次では、地域の方から課題を挙げてもらい、グループごとに探究していく予定である。また、インターシップも導入予定である。3年次には、それまでの学習内容を総合し、自分自身で川俣町に対して何ができるのかを考えながら見つけた課題を探究に落とし込んで行動していく。農業や動画を探究のテーマや課題解決の方法として選択する生徒も出てくるであろう。

②部活動について(教頭)

・部活動が次年度より大きく変わる。地域活動部を新設し、生徒全員が地域活動部に所属する。その中には、フェンシング部と川高魅力伝え隊部も含まれる。生徒は部員としてボランティアや町のイベントに自由に参加できる。全ての依頼に応えることはできないかもしれないが、必要があれば地域活動部の顧問が活動を見守る。もう一つの大きな変更は地域サークル活動に生徒が参加できるようになること。地域サークルの活動を本校で実施し、生徒が参加する、又は校外で開催される地域サークル活動に生徒が出向いて参加する。地域の人と一緒に本校生徒が放課後に活動できる機会を提供する。さらに、現在のスポーツクラブに加えて、総合文化クラブも新たに設置する。

③「川高魅力伝え隊」の活動について

・生徒の発表(2年)

校長先生から依頼されてこの活動が始まった。これまで、東京や郡山で開催された説明会に参加し、オンラインによる説明会も4回行った。個別相談会では、中学生やその保護者に対して本校の魅力を伝えてきた。「生徒のやりたいを先生が応援してくれます。生徒のやりたいを地域の方が応援してくれます。生徒のやりたいことがかなう学校、それが川俣高校です」

○委員から

- ・内容の濃い教育活動が展開されている。今後もこの調子で続けてほしい。
- ・この取り組みをこのまま続けてほしい。失敗したことも多々あるだろうが、修正しながら頑張ってもらいたい。
- ・今まで知らなかった部分を知ることができた。生徒一人ひとりが自分事として課題に向き合い、解決に取り組んでいる。自主性と主体性を育成することは、それが責任感につながり、ひいては人材育成になると考えているので、今後が大変楽しみである。子供たちはとても楽しそうに見えるが緩い活動だけでなく、高校時代の3年間の中でも汗を流して一生懸命取り組み、歯を食いしばってやり遂げるような活動も加えてほしい。それによって明日に向かう力を育てることができるだろう。
- ・フェンシング部の生徒を指導しているが、大変熱心に真剣に取り組んでいる。今後も引き続き、フェンシング部員のために練習環境づくりをお願いしたい。活気のある子供たちに川俣高校の活動が広がっていくとよい。小学生や中学生には川高の良さが十分に伝わっていないようだ。川高に行きたいと思わない原因や理由を探り、アピールしていく必要がある。
- ・自分が高校生の頃と比べると、生徒が様々なことに取り組んでいて大人だと感じた。自分の子供も川高を卒業し、ここでよかったと思っている。今日は生徒が努力している姿を見て感動した。この取り組みを引き続き継続してほしい。R7 年度より学区外からも出願できるようになり、今後ますます期待する部分がある。福島県に川俣高校ありという姿を見せてほしい。
- ・生徒の様子を見ると少しずつ変わってきているようだ。生徒ののびのびと生活している様子がよく分かった。以前は生徒の挨拶も暗く、生徒数も少なく寂しい感じがした。先生方が苦勞しながら様々な取り組みを行っていることがありがたく、町民として関わることがもったあるのではないかと考えている。町・県・高校との連携を強化し、今年度の取り組みをしっかりと振り返り、次年度以降に活かしてほしい。先陣を切るのは大変だが、成功している他校の事例もたくさんある。今の人数で、川俣町でできることもたくさんある。さらなるバージョンアップを。

(5) 任期満了について(校長)

(6) 閉会のことば(進行)